

令和4年5月20日

クラウドファンディングにより作成した  
「被爆者スライド標本データベース」を公開します

広島大学原爆放射線医科学研究所（原医研）は、2020年7～9月に行いましたクラウドファンディングにより271人の方から総額4,609,000円のご支援をいただき、「原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト」を進めてまいりました。

本プロジェクトの一環として作成を進めてきた「広島大学原爆放射線医科学研究所 被爆者スライド標本データベース」を作成しました。被爆者の方の個人情報保護に十分配慮した上で、5月20日からwebサイト（URL: <https://rbm.hiroshima-u.ac.jp/>）で無料公開します。

これらは被爆後早期の放射線による人体影響を示しています。原爆が人類に及ぼした「負の遺産」を後世に伝える科学的資料として、研究や平和教育に活用していただければと願っています。

データベースに収載されているのは、原医研が保管する「AFIP 返還資料\*」で「被爆初期例」とされている被爆者のうちの100人の資料です。死亡後に採取された臓器や組織のスライド標本の中には経年劣化が進んでいるものも多く、最新の技術を用いてデジタル画像化しました。これら画像の一部とともに、医学記録や被爆状況の情報も併せて載せています。また、データベースでは年齢、被爆距離（爆心地からの距離）、被爆場所などから検索および閲覧ができるようにしています。

今後、残りの資料についてもデジタル画像化するほか、正常組織との比較、解説コーナーなど、さらなる充実を図ってまいります。

\* AFIP 返還資料

原爆投下直後から行われた医療や調査研究により得られた、貴重な被爆者の記録や標本などは、戦後まもなくアメリカに持ち去られました。AFIP（米軍病理学研究所／The Armed Forces Institute of Pathology）に保管されていたこれらの資料は、1973年にようやく日本に返却され、広島原爆に関する資料は現在広島大学原医研に保管されています。

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所  
附属被ばく資料調査解析部  
助教 杉原清香  
TEL:082-257-5877